



名東区は どんなまち？

1 名東区の地形について

名東区は名古屋市の東部丘陵地に位置しますが、矢田川、香流川及び植田川の周辺が低く、標高30m前後であり、地下鉄沿線も比較的低く一社駅付近が40mで、東に行くに従い徐々に高度を増し、藤が丘駅付近では約55mです。

区の西部と東部が高く、平和が丘及び藤巻町の高い所で約80m及び約90mであり、また、最高点は猪高緑地の御岳神社内で108.6mの三角点があります。

その他の代表的な場所の標高は、区役所が45m、東名高速道路名古屋インターチェンジが約50m、明德公園が約50mから70m、牧野ヶ池緑地が約40mです。

東部丘陵地を前述の3つの河川が浸食して低い地域が形成されたと考えられます。

2 めいとう総合見守り支援事業

めいとう総合見守り支援事業とは

避難行動要支援者(65歳以上ひとり暮らし高齢者、75歳以上高齢者のみ世帯、介護保険受給者、障害者や難病患者)などに対し、日ごろの見守り活動とともに、いざ災害時に「共助」による迅速な安否確認や避難支援が行えるよう、地域と行政が一体となって取り組んでいる名東区独自の事業です。

地域と行政が
一体となって取り組む
活動だから、安心ね!



ひごろの活動が いざで活躍します



ご近所でのあいさつ



地域の防災訓練への参加呼びかけ

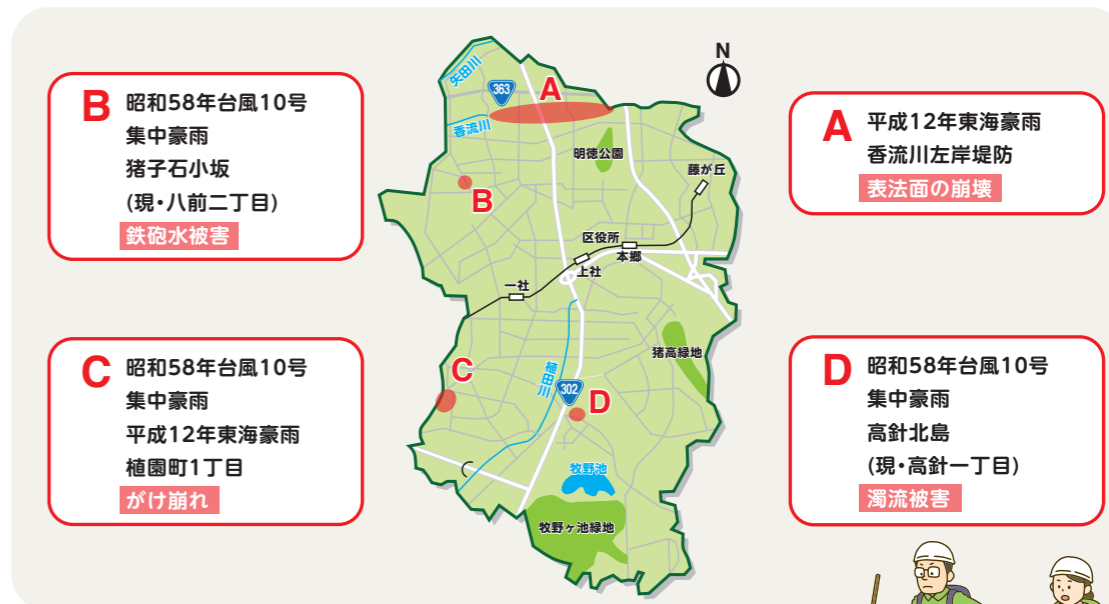


災害時の安否確認や避難支援

災害時に迅速な安否確認・救援活動を行うためには、日ごろから「顔の見える関係」を作っておくことが大切です。みなさんの日ごろのちょっとした声かけが大きな成果を作ります。

3 名東区災害の歴史

名東区は名古屋市の東部丘陵地に位置し、名古屋市南部や西部に比べると一般的に災害の少ない地域であると言われていたますが、過去には予想もしていなかった風水害による大きな被害が発生したことがありました。



【風水害】

昭和58年 台風10号集中豪雨 (昭和58年9月28日発生) なぜ? あんなところで ~丘陵地に鉄砲水~

1983(昭和58)年9月28日、台風10号の影響を受け活性化した秋雨前線が突発的な集中豪雨をもたらしました。大雨洪水警報発令から30分足らずで、排水能力を超える1時間あたり72.5ミリの記録的な豪雨となり、いたるところで浸水被害が発生しました。

水害の危険性が少ないと考えられていた東部丘陵地域で被害が多発し、道路にあふれた水が坂道流れ、鉄砲水となって被害が発生し、小・中学校の下校時刻と重なったため、市内で4人もの尊い命が失われました。このほか、名東区内で、床上浸水7世帯、床下浸水190世帯等の被害がありました。集中豪雨の危険性を改めて認識させられる災害となりました。

東海豪雨 (平成12年9月11日発生) 観測史上最大の降水量 ~市内の37%が浸水~

2000(平成12)年9月11日から12日にかけて、東海地方を襲った集中豪雨は、秋雨前線に台風の温かく湿った気流が流れ込んだことにより発生し、名古屋市では、1時間で最大97ミリの雨が降り、24時間降水量は534.5ミリといずれも観測史上最も高い値を記録しました。また、排水能力を超えた雨により西区を中心に低地が冠水し、市内の37%で内水・外水氾濫が発生しました。

名東区内では、床上浸水42世帯、床下浸水68世帯、植園町1丁目でがけ崩れが発生し、藤森西町及び香流二丁目・三丁目香流川左岸堤防の表法面が崩壊するなど大きな被害をもたらしました。